



平成 26 年 12 月 15 日

各 位

上場会社名 株式会社ミロク
 代表者名 代表取締役社長 弥勒美彦
 (コード番号 7983 東証第2部)
 本社所在地 高知県南国市篠原 537-1
 問合せ先
 責任者役職名 取締役管理本部本部長
 氏 名 中澤 紀明
 TEL (088) 863-3310

「2015 中期経営計画」策定に関するお知らせ

当社は、2015 年 10 月期を初年度とする 3 カ年の中期経営計画「2015 中期経営計画」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 「2015 中期経営計画」策定の背景

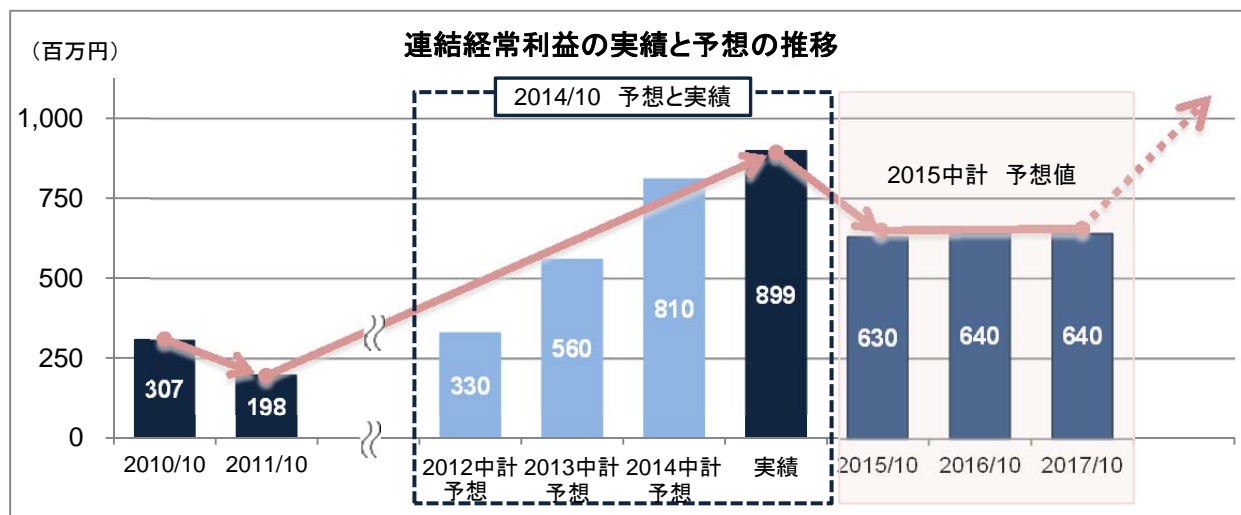
当社は毎年、次年度を初年度とする 3 カ年の中期経営計画を策定し、その内容及び数値目標をローリングしながら、企業価値向上に取り組んでおり、「2014 中期経営計画」におきましても、2011 年 10 月期を底として、連結経常利益率 5%以上の連結業績の回復基調を維持することができました。

しかしながら、2015 年 10 月期以降につきましては、数年来増加が続いた米国猟銃需要の落ち着き、原材料のうち円安の進行による海外輸入部品の高騰等、利益成長を模索する当社にとって逆風の事業環境が想定されます。そうしたなか、販売先との連携や当社の誇れる技術を駆使し、解決策を講じることで、より強靱な経営基盤を構築すべく、本計画を策定いたしました。

2. 「2015 中期経営計画」の基本方針

当社を取り巻く経営環境の変化から、現在のところ、過去数年間のような業績拡大を描くに至っておりませんが、厳しい環境下においても連結経常利益率 5%以上の確保を続け、将来の上昇局面において十分に飛躍できるよう、中長期視点からの着実な経営基盤の強化を進めてまいり所存です。

具体的には、猟銃事業では、米国猟銃市場の中長期的な成長力への的確な対応、工作機械事業では、機械部門・ツール部門・加工部門を併せ持つ強みの発揮を品質第一で更に推し進め、「これまでに培ってきた他社に無い固有技術を強化して収益を確実に上げると同時に、新たな技術を開発して新規事業に結びつける」ことを引き続き中長期的な基本方針と位置づけてまいります。



3. 事業別重点施策

① 猟銃事業

主力の米国市場は空前の活況を呈してきましたが、2015年以降は調整局面が予想され、欧州市場についても、依然として需要回復には時間がかかるものと予想されます。このため、当面は需要減速の影響は回避できませんが、米国の猟銃市場は成長市場であること、当社最大顧客であるブローニング社が市場占有率拡大による販売数量の飛躍的増加を狙う成長戦略を掲げていることから、今後の飛躍に向けた諸施策の実現に邁進する所存です。既に2014年度において、例年の2倍ほどの設備投資を実施し、生産能力を増強しておりますが、これに加え、設計及び製造の品質向上への取組みを一層推進することにより、品質へのこだわりとタイムリーな納品、受注能力の最大化に努めていきます。

また、同時に市場の求める新製品の開発力強化にも注力してまいります。顧客の購買意欲を喚起する新製品・新技術の開発や原価低減を目指した量産設計規格の提案を行い、品質・価格の両面で市場での存在感を高め、魅力ある製品づくりを進めてまいります。

② 工作機械事業

主たる顧客である自動車業界は持続的に回復基調にあります。工作機械需要に関しては、汎用機から専用機であるガンドリルマシンへの波及に力強さを実感できない状況が続いております。このため、当社では、従来より得意としてきた孔明けの径に固執することなく、大口径用深孔加工機BTAによる大口径から、極細口径にいたるあらゆる大きさの孔明けを網羅することで、機械部門からツール部門、加工部門を問わず販売機会を探っていくことにしました。

具体的には、機械部門では、東南アジアを主体に、他社連携によるOEM製品の拡販を営業力強化により実現させ、合わせてツール部門の販売を伸ばしてまいります。加工部門では、国内を主体に、尼崎の加工工場の本格稼働に続いて、来年度は中部地方にも工場を新設し需要を獲得してまいります。また、これまでの円高による為替水準によって見送っていた海外市場への販路拡大を模索するとともに、大口径用深孔加工機BTAに続く新たな製品領域の拡大を図り、製品バリエーションの拡充を目指してまいります。

③ 自動車関連事業

自動車関連事業につきましては、自動車産業において、世界規模の生産台数の増加が見込まれる一方、国内生産台数は伸びない状況にあり、当社の主力である高級車向け純木製ステアリングハンドルもこのような動きに起因する影響を避けられず、厳しい環境が続くと予想しています。

このため、間接部門の効率化や原価低減活動を更に進めてコスト競争力を高めるとともに、純木製でしか出せない意匠や触感の伝わる製品・技術開発を進めて行きます。また、ハンドル以外の内装加飾分野及び非自動車分野に事業領域を拡大すべく、製品・技術開発と案件開拓活動に積極的に取り組んでまいります。

4. 数値計画（連結）

単位：百万円

	2014/10期 実績	2015/10期 予想	2016/10期 予想	2017/10期 予想	(ご参考) 2011/10期
売上高	12,742	11,800	11,520	11,140	9,016
営業利益	695	500	540	530	△53
経常利益	899	630	640	640	198
当期純利益	642	390	390	390	81

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上